

開館30周年記念

みんなく ウィークエンド・サロン 研究者と話そう

実施日・話者・話題・場所

2月3日(日)

森 明子 (研究戦略センター教授)
カーニバル・ローラー、シェーラーによせて
於:ヨーロッパ・テーマ展示

2月9日(土)

新免 光比呂 (民族文化研究部准教授)
イースターエッグとガラスアイコン
ルーマニアのキリスト教会
於:ヨーロッパ・テーマ展示

2月10日(日)

韓 敏 (民族社会研究部准教授)
春節の中国
於:中国地域の文化展示

2月11日(月・祝)

八杉 佳穂 (民族文化研究部教授)
チョコレートの文化史
於:アメリカ展示

2月17日(日)

出口 正之 (文化資源研究センター教授)
一枚の看板から知るみんなくの面白さ
於:企画展「世界を集める」

2月23日(土)

吉田 憲司 (文化資源研究センター教授)
みんなくの今、万博の記憶
於:アフリカ展示、西アジア展示
企画展「世界を集める」

2月24日(日)

小林 繁樹 (文化資源研究センター教授)
物を贈り、社会を結びつける
於:企画展「世界を集める」、オセアニア展示

※詳細は、ホームページをご覧ください。
都合により、予定を変更することがあります。

■時間: 14:30~15:30(予定)

■参加費: 無料(ただし、常設展観覧料が必要)

*毎週土曜日は、小学生・中学生・高校生は無料で観覧できます。
ただし、自然文化園を通行して来館される場合は、自然文化園の入園料が必要です。



旧暦の大晦日、正月飾りの
春巻(しゅんれん)を手書きする農家の男性

編集後記

今月の特集のテーマは多くの方がさまざまな錯綜する体験をもつ国境である。国境によって表象される国家の威信、その威信に比べ意外に簡素な物理的国境、あるいは標識さえないケース。入管も身体検査にちかいこともあれば、パスポートを開けさえしてくれないこともある。しかし国境には元来、平穏で標識すらない自然のなかにあっても、怖く、冷淡なイメージが付きまとうものだ。以前、エストニアとロシアをわけるブスコブ湖上で、小船の漁師が突如、すぐ対岸に見える、人影のうごくロシア側の監視塔を指しながら、もうロシア領に入っているかも、とつぶやいた。冷戦時代でもないから、とボートを出してもらっていたのだが、いわれた際には、今にも銃弾が背中中に飛んでくるのでは、と冷や汗が出た経験がある。地元の人々の越境の際には、国境警備のボートで連行され取り調べがあつて普通はその日に帰してくれるらしい。しかし外国人ならそうはいかなかったはずだ。変な冒険心でひんしゆくを買うようなことをせずよかつたとも今思う。(庄司 博史)



交通案内

- 大阪・千里万博記念公園内
- 大阪モノレールで「公園東口駅」・「万博記念公園駅」下車徒歩約15分。
- 阪急茨木市駅・JR茨木駅・北大阪急行千里中央駅からバスで「日本庭園前」下車徒歩約15分(茨木方面から1時間1本程度、日本庭園前駐車場乗り入れのバスがあります。詳しくは阪急バスにお問い合わせください)。
- 自家用車の場合は、万博記念公園「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分。
- タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れてきます。



次号予告/3月号特集
西南中国

2008年2月号

第32巻第2号通巻第365号
2008年2月1日発行

編集・発行 人間文化研究機構 国立民族学博物館
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1
電話06-6876-2151

発行人 朝倉敏夫

編集委員 池谷和信(編集長) 榎永真佐夫
久保正敏 庄司博史 山中由里子

協力 財団法人 千里文化財団

制作 株式会社博覧堂

製版・印刷 アサヒ精版印刷株式会社

- 本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館企画連携係へ
- 本誌掲載記事の無断転載を禁じます